令和 5 年 3 月のおたより

我が家のある細い路地は、近くの小学・中学・高校に通う生徒たちが通りぬける裏道でもあり､登下校時はにぎやかです｡時にはいたずらっ子が人の家の呼び鈴を押したり、塀に貼ってあるポスターに落書きしたりと、腹立たしい思いにさせられることも度々です。それでも少子化と言われる世の中だけに、子どもの笑い声やふざけ合う声がとても貴重なものに感じられ、心も和みます。

ただし、そうした感性は誰しも共通であるとは限りません。長野市の住宅街にある公園が、1 軒の住民の「子どもの声が騒がしい」との訴えにより、この 3 月いっぱいで廃止になるという報道が話題に上りました。かつては風鈴が騒音公害であるとして、隣人同士で争われたこともあります。近隣との交流が薄くなり、互いの意思疎通を欠いている現代社会を象徴する出来事でした。

コロナのせいもあり、地域の伝統行事であるお祭りも自粛されています。以前は時期が来ると、近くの神社から祭囃子のけいこで毎晩遅くまで太鼓が鳴り響いていました。それは、誰しもが心地良い響きというわけでないでしょうが、祭礼ということで受け入れられてきたのでしょうか。地域の絆をこうした伝統行事が培ってきたとも言われ、実際その頃になると普段は姿が見えない多くの若者が集まってきます。見逃せないのは、そうした場での大人たちの存在です。期間中は“長老”が場を仕切り、若者は担い手となりながら、自分の親とは違う様々な大人達の姿を通して社会を学びます。それが住民の連帯意識を呼びさます機縁にもなってきた、というわけです。

若者たちが、笛や太鼓の音に浮かれて家から飛び出してきたくなるような、そんな躍動感あふれる｢騒音｣が恋しい､そんな昨今の気分でもあります。　（K）

記

＜3 月度学習会＞

・日時：3 月 25 日（土）13：30～　（菜の花ホール）

・体験：「不登校児と歩んだ母として、看護師・教員として、一人の人間として」

「19 歳の息子と二人暮らし。病院や教育機関で働きながら子育てをする中、子どもが中学生で不登校になり一時は混乱しました。互いに試行錯誤しながらも次第に成長し、今は穏やかに過ごせることが増えています。それでも、〝親なき後“や 〝ひきこもり”への心配はぬぐい切れませんが…」

・グループミーティング

参加資格：ひきこもり当事者およびそのご家族。

当日のご出欠をあらかじめご連絡ください。090-2335-1338 加藤＝ショートメール可